

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】 平成 30 年度

事業所番号	2771100894		
法人名	社会医療法人 慈薫会		
事業所名	グループホーム大阪緑ヶ丘		
所在地	大阪府岸和田市神須屋町662-2		
自己評価作成日	平成 30年 9月 20日	評価結果市町村受理日	平成 30年 11月 16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaiyokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kanistrue&jizyosyoCd=2771100894-00&PrefCd=27&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会		
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 30年 10月 23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

緑豊かな環境の下、医療、福祉両面での体制が整っています。職員は利用者一人一人の体調、思いを観察、お一人ずつの生活を築いています。利用者、職員共に明るく、生き活きと暮らしています。職員は利用者の笑顔が自慢です。カフェや共用デイ実施において、グループホームで培った認知症ケアの力量を地域へアウトリーチ、地域にグループホームへの認識と理解が浸透してきている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域に根ざして貢献する社会医療法人が運営するグループホームで、介護老人保健施設や各種の介護保険事業所を併設し、近隣には同一法人の病院があります。開設後17年余りの事業所で、日本のグループホームの草分け的存在でトップランナーとしての気概と実力の備わったホームです。広く明るくゆったりとした死角のないリビング兼食堂の大きな窓からは桜・梅、金柑の木や東屋のある広い庭園が見えます。また、季節が楽しめる周辺の田園風景・山並みが見渡せ、やすらぎを感じることができます。有資格者、また経験豊かなベテラン職員が多く、利用者の意思を尊重しながら笑顔で優しく接し家族とも協力して利用者に対応していることに、家族は高い評価を与えています。利用者は優しい職員に囲まれ、美味しい食事を楽しみ、医療的な心配もなく、落ち着いた雰囲気の中でゆったりと過ごしています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は誰もが目につくフローに掲示している。地域の中でその人らしく暮らし続けることが出来る様地域と家族と共に理念に添った支援をしている理念から各ユニット年間目標を立て、理念を具体化した支援を行っている	設立当初の理事長の思いを込めた理念をもとに、平成30年度事業計画の具体的な目標として「認知症ケアの実践力を高める」「家族と共に作る介護」「地域と共に作る介護」を定め、その実現に努力しています。定例のグループホームミーティングや毎日の業務を通じて方針を共有し、利用者がその人らしく安心して楽しく生活を続けられるよう、家族や地域の人たちと共に支えています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町内会に入っている。地域行事(祭り・盆踊り・避難訓練)に、定期的に参加している。又、カフェ時地域の方の参加あり交流により、地域の方と共に外食、花見、ごちそう作り等の機会に結びついている。	ホームは近隣の住宅街からは少し離れた場所に立地していますが、地域の祭りやケア会議、サロンなどにも積極的に参加しています。またそれだけでなく、地域の方が介護で困った時にはホームを頼ったり、様々な余暇活動で気軽にボランティアとして協力してくれています。今年の花見には、ホームの利用者が見やすいように、先に場所取りに出向いてくれる方もおられました。長年かけて培った地域の方との関係性がしっかりと定着しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>月1回大手スーパーフロアーにて相談事業を開いている。 認知症カフェ月2回実施し、認知症への理解が地域の方へ広まっている。</p>		
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>会議では利用者状況、行事報告をしている。 ボランティアの紹介や、地域行事への案内を頂いている。</p>	<p>運営推進会議は2か月に一度開催し、ホームの状況や行事などの活動を報告しています。会議の参加者からは、報告を受けるだけでなく、利用者に喜んでもらえるような地域における社会資源について情報提供をしてもらえることもあります。最近では紙芝居のボランティアの方を紹介され、実際にホームに来てもらうことができました。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>不明な所は市担当者の尋ね回答を頂いている。市からの研修場所として、研修を受け入れしている。 認定更新時には利用者の暮らしぶりを伝え、事故報告書も速やかに提出している。</p>	<p>統括責任者は、市の担当職員と報告や相談、情報交換に努め、協力関係を築いています。主任は、市の介護保険事業者連絡会や地域のグループホーム連絡会に参加し、情報交換しています。また、ホームを市が主催する各種の研修会の会場として提供しています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>委員会設置、身体拘束についての研修もある。禁止対象となる具体的な行為は職員周知している。利用者の気分や状態をキャッチし、抑圧感の無い自由な暮らしの支援に努めている。</p>	<p>職員は年間計画に基づき、身体拘束廃止や虐待防止について学び、意識を高めて、身体拘束のない介護を目指しています。1階事務所受付前の出入口扉やエレベーターは施錠されていません。外出願望のある利用者については、見守りと付き添いで対応しています。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>委員会設置している。研修もある。日常の言葉使い、マナーの振り返りを行い、防止に努めている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>必要に応じて関係者と話し、活用できるよう協力している。 研修の機会があれば参加したい。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時には、十分な説明を行い、家族の思いを傾聴、理解を頂いた上で契約頂いている。 改訂時には、文書作成、不明な所は説明の上、署名、捺印を頂いている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見箱設置している。 面会時には状況説明、話し合う場を設けている。家族とは、気さくに話して頂ける関係性を築いている。頂いた意見に基付き、ケアに反映している。</p>	<p>家族が面会に来訪した時には、利用者の近況報告をして、同時に家族の希望も聴き取っていけるようにしています。ある寝たきりに近い状態だった利用者の家族から「なるべく他の利用者の方とも一緒に過ごせる時間を作ってほしい」という希望があり、その時間をとれるように工夫したところ、利用者の表情も良くなった、ということがありました。また、直接職員に伝えにくいことについての意見も得られるよう、ケアプランを送付する際に「意向確認書」を同封し、要望を記入して返送してもらっています。意向確認書に丁寧に記入して返送される家族も多く、大切なツールとなっています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>管理者は職員の思いや意見は必ず聞いて下さり、適確な判断のもとコメント頂いている。 月1回管理者、職員との管理会議を行っている。</p>	<p>職員は、定例のグループホームミーティングや毎日の業務を通じて業務の改善事項や課題について話し合い、提案し実行しています。有資格者、また経験豊かなベテラン職員が多く、利用者の意思を尊重しながら笑顔で優しく接し家族とも協力して利用者に対応していることに、家族は高い評価を与えています。統括責任者・主任は職員の働く環境や勤務時間などに留意し、改善の努力をしています。また、職員と定期的な面談を行っています。</p>	<p>ホーム開設後17年余りが経過していますが、その間グループホームでのアセスメントやケアプラン、記録類に対する考え方が変化しています。業務量の縮減のためにも、この課題について一度職員間で話し合いをされてははいかがでしょうか。</p>
12		<p>○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>職員一人一人の能力に応じて、やりがいを感じ、生き活きと働ける様に配慮している。 資格取得や研修受講を奨励し、向上心を培い、協力している。</p>	/	/
13		<p>○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修受講において、勤務時間を調整、研修機会を作っている。 資格取得に向けて奨励、協力している。</p>	/	/

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	日本認知症GH協会、岸和田市介護保険事業者連絡会に加入している。 ネットワークが出来ている。法人内のGHと相互研修を行っている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の情報を収集。本人の思いを把握、安心される関わりから関係づくりをしている。 体験利用を行い、顔馴染の関係性からスタートしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約前の面談で、家族の思いを伺っている。不明な事や気になる事はいつでも対応している。 初日の様子は電話で報告し家族への安心へ配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	どんな暮らしを望まれるか？面談の中で聞き取り、アセスメントの下、必要な支援を検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の出来る所を活かした生活を築き、職員と共に作業や団欒、同じ時間を共有している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時やケアプラン作成時、気持ちを伺っている。家族は書面で気持ちを伝えて下さっている。家族様との団欒、共に外出など協力している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方の訪問や、電話、手紙等関係性継続へ協力している。写真を部屋に掲示したり、話題にし関係が途切れないように努めている。	職員は、利用者の知人がホームを訪ねる時に支援しています。利用者が手紙を書きたい時や電話をしたい時にも支援しています。事前に教えていたホームの携帯番号に家族から電話がかかり、利用者に取り次ぐ便宜を図って、利用者の思いに寄り添い、利用者が大切に思う馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格や、気の合う方同士等配慮している。個性を尊重し、利用者同士の関係性を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	お手紙や電話で近況報告を頂いたり訪問もある。 御家族からの相談があれば、応じている。		
Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、声掛け、把握に努めている。職員の気づきを職員間で共有している。困難な方は家族と話し合い、意見を書面に書いて頂いている。	当初のアセスメントやその後の暮らしのなかで、利用者と家族から聞き取ったり、利用者の表情やしぐさから汲み取った希望や思いを「申し送りノート」に書き込み、職員間で情報を共有する努力をしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時、暮らし情報シート作成、家族や、関わりがあったケアマネ様より情報収集をおこなっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	カンファレンスの場で現状報告や、気づきを話し合っている。 内容を記録し、参加していない職員にも周知している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>ケアプラン作成時には家族の希望、本人の思い、職員の報告、意見を聞き、話し合ってプラン作成している。</p>	<p>介護計画は6か月毎に、また状態の変化がある時はその都度、見直しを行っています。計画作成担当者は定期的に個別介護計画のモニタリングをして評価し、カンファレンスで報告しています。また、家族にも説明して介護計画の見直しにつなげています。ただ、現在使用中の介護計画書は暮らしと心身の状態について18項目もあり、介護計画の職員への周知徹底や援助内容のモニタリング記録の取り方に工夫の余地があります。</p>	<p>介護計画については重点項目のみを対象を絞ることを検討されてはいかがでしょうか。また、介護計画の個別の援助項目の職員への周知徹底の仕方や、職員による日々のモニタリング記録の取り方の改善をされてはいかがでしょうか。徹底策の一例として、利用者毎の日報用紙に介護計画の援助内容を盛り込み、実践内容を計画と関連付けて日々記録するなどの方法を検討されてはいかがでしょうか。</p>
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>支援経過に記録、カンファレンス、モニタリング、情報に基づきプランに導入している。</p>	/	/
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>必要な支援に対して、可能であれば協力している。</p>	/	/

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方との関係性、ボランティアの協力を頂き、面の広がりがある生活を築いている。 個別的な支援にも協力している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からのかかりつけ医の受診の方もあり、訪問診療を受けている方もある。受診の際には、書面で報告、DRからの返信をいただいている。	家族の同意を得て、大半の利用者は、協力医療機関の医師による月2回の訪問診療を受けています。職員として常駐している看護師が健康管理を行っています。以前からのかかりつけ医やその他の診療科目について受診する利用者には、家族の同行が原則ですが、必要の都度職員が通院介助を行っています。協力医療機関と連携し、夜間や緊急時の対応についても万全な体制を整備しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師常勤配置。 体調変化や、気づきを看護師に伝え、すみやかにDRと連携している。 受診必要時は付き添っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院時は病院関係者に情報報告。病院関係者と家族と共に入院後の状態、退院についての話し合いの場を作っている。家族の意向、本人の思いに添い、退院について早期に決定している。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>契約時「重度化した場合における対応に関わる指針」を説明、同意を得ている。 終末期になれば、家族の意向を随時確かめ、医療連携の下安心され、納得される最期を迎えられるように取り組んでいる。</p>	<p>ホームは看取り実施の方針を持ち、実績もあります。利用者が重度化しても可能な限りホームでの生活が継続できるよう、サービス開始の早い段階から利用者や家族の意向を聞き、方針の共有を図っています。利用者の状況の変化に合わせてその都度、利用者や家族、医師と話し合い、対応していく予定です。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>看護師配置にて応急手当は可能であるが、初期対応訓練を全職員において実施したいと考えている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を実施している。消防署や防災センターの協力を得て避難訓練、消火器の使い方等訓練を行っている。緊急時連絡網を作っている。同法人の施設からからの協力体制も出来ている。 地域の防災訓練にも参加している。	同一法人の併設施設と合同で、年2回の火災・災害避難訓練を実施し、その内1回は消防署の指導のもとに実施しています。夜間想定訓練も実施しています。夜間の場合は、併設施設の人員の協力体制があり、安心感があります。また、地域の協力を得るため、町会と現在協議中です。食料品と水の備蓄もしています。	
IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇マナーの振り返りをしている。人格尊重、プライバシーの保護の認識を持ち、言葉かけを行っている。	職員の言葉かけや態度は明るく、利用者一人ひとりを人生の先輩として尊重し、誇りやプライバシー、尊厳を損ねないよう配慮して、丁寧でやさしい雰囲気をもって接しています。職員は年間計画に従い、人権やプライバシー、接遇の研修を受け、意識の向上に努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に会話し、会話の中で思いを聞きとめる様取り組んでいる。 伝えられない方には表情、行動より気持ちをくみ取っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方の生活ペースを優先、好み、趣味に応じた日々を過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みを伺い、必要なアドバイスをし、おしゃれ心を大切に、意識して頂けるよう関わっている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の出来る作業に応じて役割担当して頂き、職員と共に準備している。食事時は職員も共に、和やかな家庭的な雰囲気である。	おかずは併設する介護老人保健施設の厨房から届けられますが、ご飯と汁物はホームで作っています。利用者の好みに応じた食事を提供するため、月に一度はおかずもホームで作っています。また、誕生日にはその方のリクエストに応じたメニューを提供しています。近くの農園で野菜を作っており、季節ごとの収穫物を楽しむことができます。毎年、冬はこの農園で取れた大根で、切り干し大根を利用者と職員で作ることが恒例の楽しみとなっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひとり の状態や力、習慣に応じた支援をして いる	摂取量、水分量は記録している。好み に応じた食品提供、体調に応じた加補 強も検討している。6ヶ月に1回栄養ス クリーニング実施している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、 毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人 の力に応じた口腔ケアをしている	全利用者において、朝、夕口腔ケアを 実施している。歯科の助言を頂き、口 腔ケアマネジメントに取り組んでいる。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、 一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を 活かして、トイレでの排泄や排泄の自立 にむけた支援を行っている	排泄チェック表で、一人ひとりの排泄 パターンを把握し、さりげない誘導、自 立行為をの見守りの下、介助してい る。 自立の方においては、臭い、下着交換 など清潔に心がけている。	排泄記録を取り、利用者一人ひとりの 排泄のパターンや習慣を把握し、しぐ さや表情から状況を判断し、声かけや 誘導、見守りにより大半の利用者がト イレで排泄ができています。男性利用 者に立位排泄を勧めて、利用者が納 得し上手くいった事例があります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲 食物の工夫や運動への働きかけ等、 個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量の把握、食欲の様子を観察しな がら、散歩や運動に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴への意思確認をし、本人様が納得される入浴支援を行っている。答えられない方は職員側で決定したり、家族の希望や清潔面で必要な方は、毎日実施している。拒否のあった時は時間をずらしたり、対応を工夫している。	平均して週3回の入浴を楽しんでいます。家族の勧めで毎日入浴する利用者がいます。また、皮膚疾患等の特定の利用者は週3回以上入浴しています。利用者は菖蒲湯やゆず湯に入り季節を楽しんでいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活スタイルを尊重し入床、起床への支援を行っている。利用者様は好みの場所でくつろがれている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人カルテに整備している。薬の内容は全職員が理解している。症状の変化があれば、DRに報告、確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	好みを把握、ケアプランに記載、お一人に応じた暮らしを考えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別外出、自宅訪問や、思い出の場所への外出支援を行っている。 地域の方と共に外出、外食にも行っている。	回転寿司への外食(希望の場所を毎回確認するも回転寿司になることが多い)、生まれ故郷への訪問、ホームで作成した書道の展示会への参加など、それぞれの希望の合わせた外出を行っています。また行きつけの美容院、花屋、お墓参りなどに家族と一緒に出掛ける利用者も多くいます。 遠方まで外出することが体力的に難しい利用者には、ホームの敷地内にある東屋でお茶を楽しんだり、ベランダのプランターに水やりをしに行くなど、外の空気に触れる機会をつくっています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在はお金の所持が出来た方はおられず、家族から預かり、管理している。欲しい物があれば、買い物代行している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	家族と電話で話されている。親しい人への手紙や、毎年年賀状を書いて頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	<p>○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共有スペースは広く、明るく、陽射しが差し込み、庭の景色が眺められる。季節に応じた飾り付けをしたり、音楽を流したり居心地良さへ工夫している。</p>	<p>広く明るくゆったりとした死角のないリビング兼食堂です。テーブルの上には生花が飾られ、大きな窓からは桜や梅、金柑の木が見え、外気浴ができる東屋のある広い庭園が見えます。また、季節が楽しめる周辺の田園風景・山並みが見渡せ、やすらぎを感じることができます。ベランダには季節の花が植えられ、水やりをする利用者の姿があります。リビングには、季節感のある貼り絵や書道作品、楽しげな行事写真等を飾っています。また、複数のソファが置かれ、ゆったりと過ごせる居場所であり、心が和み居心地の良い共用空間となっています。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ソファや椅子を所々に配置し、お気に入りの場で過ごされている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使い慣れた家具を持って来られている。思い出の写真を飾ったり、本人様や家族様と相談しながら、個別に応じた部屋作りに取り組んでいる。	居室は広くて明るく、周辺の自然も楽しむことができます。利用者は、机や椅子、ソファ、書棚、手芸作品、ぬいぐるみ、家族の写真、時計、観音さんの絵や自立像、テレビ等を持ち込んでいます。居室で読書をしたり、日記やメモを書いたり、大正琴の発表会に向けて練習をする利用者がいて、個性的で居心地の良い居室となっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全や使いやすさに配慮している。家事作業はその方に応じたセッティング、時計の位置や、雑誌の整理など暮らしやすさを考えている。		